

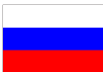
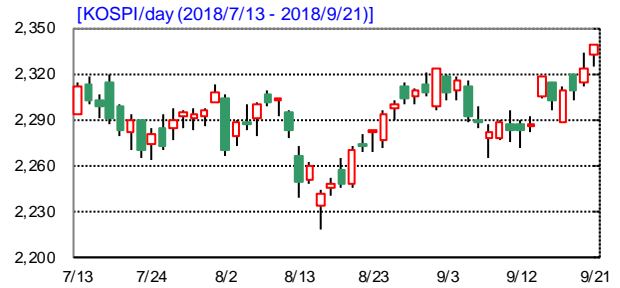


## 【韓国】 総合指数は 0.9%高と続伸、米中貿易摩擦への懸念後退が追い風か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.9%高と続伸。米中貿易戦争に対する警戒感の後退で週後半に大幅に上昇した。週明け 17 日は米国が対中追加関税を近く発動するとの懸念で反落。18 日は南北首脳会談を好感して小反発したが、19 日は小反落。南北首脳が朝鮮半島の非核化を目指す方針を明記した合意文書に署名したものの反応は限定的だった。米中摩擦への過度な懸念が後退した 20-21 日は続伸。21 日は約 3 カ月ぶりの高値で引けた。個別ではサムスン電子が堅調だったほか、セルトリオンやサムスン・バイオなどの医薬品銘柄が上昇し、指数を押し上げた。今週は米中が相互に追加関税第 3 弾を発動した上、トランプ米大統領が第 4 弾も検討する方針を示しており、市場の反応が注目される。28 日に消費者信頼感指数が発表される予定。

▼指数チャート

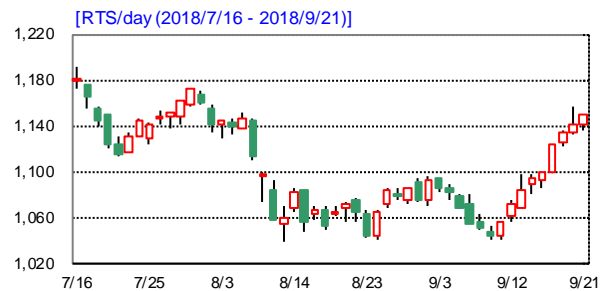


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で 5.0%高と大幅続伸、今週は原油相場の動向が焦点

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 5.0%高と大幅続伸。貿易戦争や新興国経済への過度な警戒感が後退する中、原油相場の上昇や、シリア情勢を巡る地政学リスクの後退などが好感された。ロシアとトルコがシリアのイドリブ県で非武装地帯を設置することで合意し、武力行使が回避されたほか、米国の制裁関税の発表にもかかわらず中国本土株が上昇し、投資家心理が改善した。RTS 指数は商品相場の上昇にも後押しされ、21 日まで 9 営業日続伸して 8 月 1 日以来の水準を回復。指数採用銘柄では UC ルサル (26.1%高) やメケル (23.3%高) といった資源株が急騰したほか、エネルギーのガスプロム (4.3%高)、金融のズベルバンク・オブ・ロシア (2.5%高) などが大幅高となった。今週はリスクオンが続く中、原油などの商品相場の動向が焦点か。

▼指数チャート



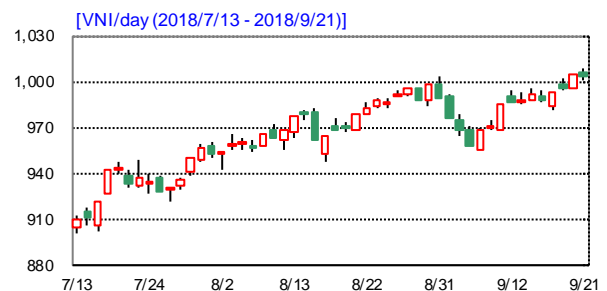
## 【ベトナム】 ベトナム指数は 1.2%高と続伸 今週はリスクオンの流れで好調持続

か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は 1.2%高と続伸。新興国からの資金流出懸念が和らぐ中、米中貿易戦争への過度な警戒感が後退したほか、商品相場の上昇や中国に代わる生産拠点としての投資拡大期待も相場の支援となった。週明け 17 日は米国の新たな対中制裁関税の発表への警戒感で指数は 0.4%安と 7 営業日ぶりに反落したが、米国が対中制裁関税第 3 弾を発表した後は、18 日から 3 日続伸。21 日は 0.2%安と反落したが、週間では続伸し、年初来では 1.9%高となった。指数採用銘柄は鉄鋼のポミナ・スチール (29.2%高)、ナムキム・スティール (16.0%高) が急伸したほか、金融のテックコムバンク (12.1%高)、エネルギーのペトロベトナム・ガス (7.3%高)、食品のビナムミルク (3.6%高) などが大幅高。今週はリスクオンの流れを背景に好調持続か。

▼指数チャート

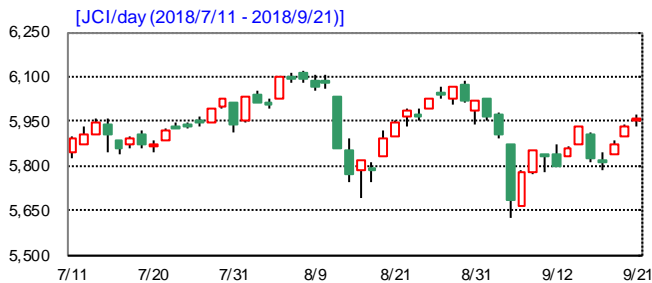


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%高、今週は政策金利の動向に注目**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.4%高と続伸。週半ばからの上昇が指数を支えた。週初の 17 日は 8 月の輸出が市場予想から下振れしたことや、貿易問題を巡る米中の緊張の高まりが嫌気され、指数は終値で前営業日比 1.8%安と 3 日ぶりに反落。18 日はトランプ米政権が前日に第 3 弾の対中制裁を 24 日に発動すると表明し、中国も報復措置での応酬を決めたことで続落した。ただ、19 日に前日比 1.1%高と反発すると、20 日はさらに 1.0%上昇。結局、21 日まで 3 日続伸して引けた。今週は 27 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、市場では今年 5 回目の利上げが実施されるとの見方も出ている。

### ▼指数チャート

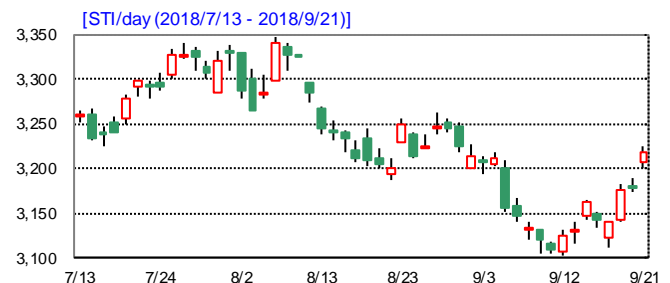


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.8%高、中国の関税引き下げ報道を好感**

スレーツタイムズ指数は週間で 1.8%高と続伸。週前半は軟調だったが、後半の買い戻しが奏功した。週初の 17 日は 8 月の非石油地場輸出が市場予想から下振れしたことに加え、上海総合指数が 14 年 11 月以来の安値を更新した影響で指数は 4 営業日ぶりに反落。18 日も小幅に続落したが、19 日は金融株が買われ、終値で前日比 1.2%高と反発した。21 日は中国が 10 月にも大半の貿易相手国からの輸入品に対する関税を引き下げる可能性があることと報じられたことが好感され、前日比 1.2%高と 3200 ポイントを回復して引けた。今週は 24 日の 8 月の CPI に続き、26 日には同月の鉱工業生産が発表される予定。

### ▼指数チャート

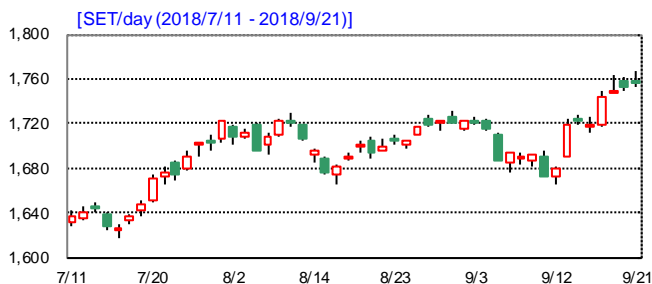


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.0%高、今週は 8 月の鉱工業生産に対する反応が焦点**

SET 指数は週間で 2.0%高と続伸。週初に下落したが、その後は堅調な値動きだった。17 日は中国株の下落に連動して 4 営業日ぶりに反落。ただ、18 日は指数ウエートの大きいタイ石油公社 (PTT) やタイ空港公社が指数上昇をけん引し、終値で前日比 1.5%高と反発すると、その後は小幅なレンジでじりじりと上値を広げ、21 日には 4 カ月ぶりの高値を更新して取引を終えた。同日に発表された 8 月の貿易収支 (通関ベース) で輸入額の増加を受けて赤字幅が前月から広がったが、影響は軽微だった。今週は 25 日発表の 8 月の鉱工業生産に対する市場の反応や、深刻化が懸念される米中貿易摩擦の動向が焦点。

### ▼指数チャート

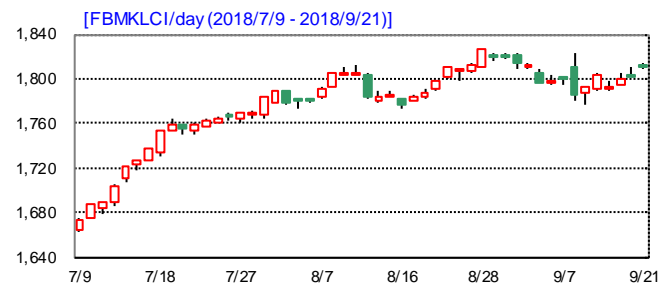


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%高、今週も米中貿易摩擦の動向に左右される展開か**

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.4%高と続伸。1 週間を通じて小幅なレンジで推移した。連休明けの 18 日は利益確定売りに加え、米中貿易摩擦の激化が嫌気され、3 営業日ぶりに反落したが、19 日は買い戻された。同日に発表された 8 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.2%と 15 年 2 月以来の低い伸びだった。その後、20 日に原油価格の上昇を受けて続伸すると、21 日は前日の NY ダウが約 8 カ月ぶりに過去最高値を更新した流れで 3 日続伸して引けた。今週は貿易問題を巡る米中閣僚級協議の月内開催が見送られる見通しとなったことが重しになる一方、前週末までの NY ダウの 4 日続伸は追い風。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。